

弥生の空に

(昭和十五年寮歌)

大井徹夫君 作歌・作曲

一

弥生の空に消え残る
霞に春の絢夢聞けて
前途を祝ふ花吹雪
友情の盃を交しつ
北斗の光身に享けて
仰ぐ健児の影清し

二

手稻の山に陽は落ちて
広き蒼空の茜雲
「我立たずんば」の意気あれど
昇天の機を小百合咲く
静けき故郷に憩して
暫し臥竜の夢に見む

三

春雨煙る並木路に
輪廻の相俣びては
露置く花を愛しみて
遠き思索に逍遙へば
緑の牧場眼に著き
野路は果てなく黄昏れぬ

四

究理の道は遠くとも
研磨の窓に月匂ふ
白魔曠野に狂ふとも
明日は希望の太陽笑ますや
正義の大道濶歩する
熱血男児ここにあり

五

光かそけき原始林蔭の
月に散り布く花蓆
エルムの精も踊るてふ
記念祭の歌は飴して
永世を寿ぐ篝火に
歓喜の夜は更けゆきぬ

六

不壊の智玉を育みて
恵迪ここに早三年
静寂の檢鐘に眼をやれば
見よ東雲は輝けり
いざ船出せむ波濤越えて
嗚呼人生の朝ぼらけ